

音楽科における学び合い

音楽科における ICT の活用

In a music course, it's learned each other
Utilization of ICT in a music course

田村 幸雄(藤塚中学校)

Yukio TAMURA

(キーワード)

学び合い ICT 活用 児童徒理解

(1) 学び合い

「学び」とは自己変革である。人は、自己を変えていきたいという前向きな姿勢があるから、そこに学ぶ姿勢が生まれてくる。そして、自分が相手から「学んだ」時に、相手がそのことにより影響を受け、自己変革するきっかけになることがある。それが「学び合い」である

(2) 音楽科における学び合い

音楽科では、個々の技量を高め、仲間とともに音楽表現の楽しさを感じさせることが大切である。そのためには、互いに学び合いながら活動の成果を全員で確認し一つの音楽を全員でつくり上げ共有化していく活動を重要視していかなばならない。

音楽科における学び合いでの活動では、音楽を作り上げていく課程でそれぞれの技量向上を図っていく必要がある。そのときに大切なのが、音楽の得意な児童・生徒が、一方的に苦手な児童・生徒に教えていくような活動であってはならない。互いに「教わってわかる」「教えてわかる」ことが必要である。ここにコミュニケーションが生まれ、学び合いができるのである。すなわち、相手の言葉や技量から何を必要としているかを知るとともに、相手のレベルに合わせて納得させる表現力が必要である。

(3) 音楽と ICT

音楽ではその特性から感覚に頼らざる終えないことが多く、的確な表現で相手に説明することが困難な場合が多い。そのようなときに、ICT を活

用すると、音を視覚でとらえるなどでき、児童・生徒の表現力をサポートすることができる。このことにより、学びあう活動が高まり、より音楽を共有化できるようになる。また ICT を活用することにより、個々の技量面での差を軽減できるため、より活発な学びあう可能性が生まれてくる。このような学び合いをすることにより、学習目標に迫ることができ、音楽を共有化したときの喜びを感じとらせることができるのである。

さらに、音楽の得意でない教師でも ICT を活用することによって児童・生徒の表現活動を支援することができる。このことにより教師は、これまで使っていた時間や労力を、むしろ一人一人の児童・生徒を理解することに向けることができるのである。しかし、ICT はあくまでも、児童・生徒の学び合いを高めていくための道具であり、支援的存在であることが大切である。

最後に

ICT がこれだけ生活の中に入り込んで、教育の中での必要性が求められている現在、私たち教師も ICT から逃げるのではなく、ICT を取り入れていく必要がある。そのためには、まず私たち教師が、「どの場面で活用すると自分が教えているスタイルに ICT を取り込んでこられるのか」、ということを自己分析し、自分の考えに固執せず、気楽に「たかが ICT、されど ICT」と思えたときに、ICT を活用するときに抱えていた多くの問題点が解決されていくことになる。